
多面的機能支払 メールマガジン

「農村ふるさと保全通信」第 95 号(2020. 11. 2)

農林水産省農村振興局 多面的機能支払推進室



高めよう 地域協働の力!

多面的機能支払のメールマガジン「農村ふるさと保全通信」の第 95 号をお届けします。

今回の活動組織紹介では、地域資源を次世代へ継承することを目標に、水辺環境や伝統文化などの保全に積極的に取り組む組織について紹介します。また、組織の代表者インタビューでは、宮崎県都城市の活動組織で活躍されている女性役員のお話を伺いました。

事務局からは、第 88 号でも掲載した新潟県十日町市の FC 越後妻有の選手たちの紹介記事、また、「棚田に恋」写真・作文コンテストの結果について紹介します。

-----**第 95 号の目次**-----

1. 活動組織の紹介
☆ 峯岸地区農地維持組合（栃木県那須町）☆
2. 活動組織の女性役員へのインタビュー
☆ 穂満坊地区農地・水保全会（宮崎県都城市）☆
3. 多面交付金にかかる女性活躍～事務の担い手として～
4. 「棚田に恋」写真・作文コンテストを開催しました！
(編集後記)

■ 1. 活動組織の活動紹介

～峯岸地区農地維持組合(栃木県那須町)～ ■

～地区概要～

栃木県の北東部、奥州街道の宿場町として栄えた芦野の北側に位置する純農村地帯を拠点に活動。

活動範囲は、田 18.3ha、畑 0.3ha、農道 0.6km、開水路 5.9km。



水路の泥上げ

～主な取組～

- ◎本組織では、農用地の適正管理や農業用施設、水辺環境の保全活動を推進し、大切な資源を次世代へ継承していくことを目標に活動を実施しています。
- ◎組織には峯岸集落全体で加入しており、地元自治会と一緒に活動しています。また、那須町土地改良区の芦野維持管理委員会とも連携しながら、農用地、農業用施設の維持管理を行っています。
- ◎令和元年度からはホタルの餌になるカワニナを保護し、河川の汚染防止に努めることで「ホタルの里づくり」を推進しています。同時に、彼岸花を株分けして増やし、草刈りをまめに行うことで「彼岸花の里づくり」も推進しています。
- ◎毎年12月上旬には、那須町の無形民俗文化財である「峯岸熊野講餅つき」が構成員の一員である峯岸熊野講保存会を中心に実施され、千本杵で天高くまで持ち上げる豪快な餅つきと伝統ある餅つき唄は、地域の住民だけでなく県外から訪れる方々にも楽しんでいただいております。
- ◎営農ビジョン検討会のアンケート結果からは、後継者の確保や新規参入が無い状態が続くと地域の6割が高齢者となるため、今後は若い担い手の確保や育成などについて話し合いを進めていきます。



ホタル観賞



彼岸花の植栽



峯岸熊野講餅つき



営農ビジョン検討会

【峯岸地区農地維持組合 代表 松本 隆】

■ 2. 活動組織の女性役員へのインタビュー

穂満坊地区農地・水保全会（宮崎県都城市） ■

① 組織の概要

- ・活動組織名 : 穂満坊地区農地・水保全会
- ・代表者 氏名 : 新地 澄夫
- ・回答者 氏名 : 安藤 いり子
: 福園 朋子
- ・活動範囲 : 田 7,414ha、
- ・対象施設 : 水路 14.6km、農道 9.8km
- ・活動開始時期 : 平成 24 年度



②組織を立ち上げようと思ったきっかけ（あるいは、組織の役員を引き受けたきっかけ）

（福園） 慣例で自治会の役員が組織の役員をすることになっています。二人とも自治会役員で、自然と引き受けました。今年が3年目です。会計を担当しております。

（安藤） 私は当初から穂満坊地区農地・水保全会に関わっており、今年で8年目になります。現在は審議委員を引き受けております。

私たちが活動に取り組んでいる穂満坊地区は、圃場整備が終わった稲作の盛んな地域です。霧島連山を背景に、田んぼが広がり、夏は緑の絨毯、そして秋になると実った稲穂が黄金色に輝く美しい光景が広がります。しかし、農家の高齢化や離農による問題が徐々に浮かび上がってきている時期でもありました。

祖先から引き継いだ美しい景観の田園風景を、末代まで守っていこうという地域住民の決意が、組織立ち上げのきっかけとなりました。

③組織を運営する中で苦労したこと

（福園） 本年度は、本組織設立から8年目となりますが、やはり高齢者や寡婦（高齢者）の方々が年々増えてきております。

（安藤） その中でどのようにして、より多くの参加者を、女性や若い世代を呼び込めるか、作業内容等の検討を運営員会で十分話し合っております。

④役員として心がけていること

（福園） 組織役員 23 名中、女性が 2 名ということで、女性ならではの視点で、組織の活動に有益な取り組みがないものか、常に考えております。

（安藤） 構成員の方々とのコミュニケーションを大事にして、良い意見や提案を活動に生かせるように意識しています。

⑤特に力を入れて取り組んでいる活動内容

（安藤） 本年度は、花の植栽を一箇所増やしていただきました。一箇所はグラジオラスを植え、6月の

満開時には黄色い花が見事でした。もう一箇所には、ひまわりを植えましたが、時期がちょっと遅くなり、まだまだの状態です。ふるさとの風景を維持し、子どもたちに引き継ぐために大切な取り組みだと思っています。

(福園) 農道や水路の維持管理はもちろんですが、地域ぐるみの活動の成果の一つとして、たくさんの花が咲くのを、毎年心待ちにしています。

⑥活動を行って良かったこと

(安藤) まず、構成員の方々と知り合えたことです。様々な団体の方がいらっしゃる中で、活動の内容を理解して貰いながら、この活動を共に遂行していけることはとても喜ばしいことだと思います。

(福園) 同じく人との繋がりが増えたことです。活動の成果を多くの方と共有できることはとても有意義だと感じます。

⑦今後の展望や目標

(安藤) 今後も構成員の話を十分に活動に生かし、みんなで魅力ある穂満坊の農地等を維持していけたらと思います。

(福園) 次の世代へふるさとの風景を繋いでいけるよう、これからの目標を定め、それに向かって全員で安心、安全の中で楽しく活動していきたいと思っています。

⑧構成員に非農業者団体が含まれている理由や参加までの流れ

(福園) 私たちの組織の活動の一つである、地域の財産「はまみや」周辺の草刈りなどを地域の皆様に評価していただいたことが発端です。現在では、自治会の青年部、育成部、高齢者などの団体が活動に参加しています。

(安藤) 「はまみや」は集落の西に位置し、田園風景を一望できる場所に馬頭観音が祭られ、浜宮水神、花立水神の石碑が残る地域住民の憩いの場となっています。用水にも利用されている湧き水が出る小さな池があり、昔は子どもたちが水遊びをする場所でもありました。

しかし、管理する人がいなくなり荒地となったため、地域で整備した後を、組織で維持管理に取り組んだところ、現在では虫が飛び交うようになり、地域の方々にとても喜ばれております。

⑨女性が活動に参画することによって活動はどう変わったか

(福園) ちょっとむずかしい質問ですが、女性ならではの着眼点で、活動に幅を持たせることができたのではないかと思います。女性の参加者が増えました。

(安藤) 参画団体の女性役員同士で情報交換を行うことで、力仕事以外の女性が参加しやすい活動や女性の力を発揮しやすい活動を把握しやすくなり、女性ならではのアイデアを生かした景観形成などの取り組みを行っています。

⑩女性の活動参画に向けて、どのような工夫を行ったか

(安藤) 現在、私たち2名が役員として参加しておりますが、このことは自治会の会長(組織の会長兼務)からのお誘いが始まりでした。

(福園) まず、安藤さんが参加し、その必要性を周りから評価されたものだと考えています。

会長のお話によると、他の活動で、女性のリーダー的存在であった安藤さんに参加してもらうことで、他の団体や人との繋がりが増え、女性ならではの視点から活動が広がり、女性の参加者も増えるのではないかと考え、声掛けされたとのことでした。

【九州農政局農地整備課】

■ 3. 多面交付金にかかる女性活躍～事務の担い手として～■

本メールマガジン第 88 号でもご紹介した、多面交付金の事務の担い手としても活躍する、新潟県十日町市の FC 越後妻有の選手たちが情報誌「新・田舎人」において取り上げられました。

サッカー・農業・委託事務の三足のわらじで地域になじみ、活躍する彼女たちの日々の活動や想いが、たくさんの素敵な写真とともに綴られています。

【農林水産省 多面的機能支払推進室】

多面的機能支払交付金とは何ぞや？
理解を深めながら徐々に地域に貢献

あるときは棚田を耕す農業者、またあるときは農家の保全活動を支えるサポート役、なにに本業はサッカー選手!? そんな唯一無二のスタイルを確立した女子サッカーチーム、FC 越後妻有が全国から注目を集めています。

チーム発足は 2016 年。新潟県十日町市松代地区の移住と棚田の担い手を増やそうと、「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」を手掛ける NPO 法人・越後妻有里山協働機構が女子サッカーチームを結成したのがはじまりでした。選手は NPO の職員として、サッカーの練習をしながら、米作りを中心とした農業活動に勤しむことを生業としています。

結成時、メンバーはわずか 2 人だけでしたが、その 1 人である大平理恵キャプテンは、前向きに捉えていました。

「祖父母が青森の実家で農業をしていたし、大学は農学部卒。サッカーも続けたいと考えていた自分には好都合でした」

サッカーと農業。そんな二足のわらじにもう一足が加わったのは、2018 年のこと。十日町市農林課の職員が「多面的機能支払交付金制度に関心のある地域が市内にいくつかあり事務の委託先を探している」と、NPO 側に相談を持ちかけたのがきっかけとなり、チームとして受託することに。



(左) FC 越後妻有の皆さん。
左から小林選手、渡邊選手、石渡選手、大平選手、森選手。
(上) 笑顔が絶えず、チームワークの良さがうかがえました。

多面的機能支払交付金
活用事例紹介
新潟県十日町市
FC 越後妻有

若さを生かして過疎化に悩む農村集落をサポート

サッカー・農業・委託事務、三足のわらじで 地域に愛されるチームを目指す!

全国の中山間地域が少子高齢化による担い手不足に悩んでいます。そんな中、スポーツと農業を軸にしながら農村保全のサポート活動を行うユニークな取り組みをご紹介します。そこには、集落の人々と一緒になって汗を流す若いアスリートたちの姿がありました。

取材・文・撮影 / 宗像幸彦 写真提供 / NPO 法人 越後妻有里山協働機構



通して、自分にはできないことがきたら」と語ります。

事務委託の主な仕事は、報告書類や役員会の議事録の作成といったパソコン業務ですが、ときには農地維持支払交付金を利用して道の普請（道路上の整備や雑草の除去）などで共に汗を流すことも。

「私が担当する新水地域資源保全会は、朝 4 時から 8 時くらいまで作業するのが集落の習わしになっていたので最初は早起きが大変でした」と語る大平さん。作業に参加するうちに男性の参加者しかいないことに気づき、資源向上支払交付金が当てられる花植えなどの景観形成を提案。女性の方々にも参加できる機会を増やしました。



十日町市を代表する星峠の棚田。1 年を通して美しい景観が広がります。

「そもそも制度自体を知らなかったの、まずは農林課職員の方に教えてもらいながら理解を深めていきました」と話すのは、もう一人の創立メンバー、石渡美里さんです。

申請初年度ほどの集落側にとっても初の試みだったこともあり、軌道に乗るまでは双方で手探りのコミュニケーションが続きました。

「役員さんはほとんどが年配者で世代も違いますし、私たちが地元の人間ではないので大変でしたが、地域に貢献できているという実感が徐々にやりがいいに変わっていきました」と石渡さんは当時は振り返ります。

バリエーション業務だけにとどまらず、実作業の参加やアイデア提案も

現在、チームが多面的機能支払交付金の事務を委託されているのは、新水地域資源保全会（4284a）、山谷保全会（2277a）、野中保全会（1220a）、池之平農地維持管理会（723a）の4組織（カッコ内は対象農用地面積）。2020年になってチームメイトが6人に増えたおかげで、各々が組織を分担して受け持っています。

池之平農地維持管理会を担当する森希紗さんは生まれも育ちも東京の都会っ子。

「最初は集落という言葉の意味すらよくわからなかったのですが、それぞれの気質や事情が全然違うのがわかりました。この業務を



（上）活動組織の事務を担う選手たち。報告書類の作成などを行います。（左）松代小学校で行われた田植えイベント。選手自らレクチャー。



地域の皆さんと共に汗を流し、田植えや稲刈りなどの農作業を行っています。



「資源向上支払交付金」での取り組み



景観形成を目的に、色とりどりの花々を植栽しています。

「農地維持支払交付金」での取り組み



農用地法面の草刈り、水路や側溝の泥上げなど、農地の保全管理を定期的に行っています。



当面の目標は県リーグを優勝し、上位カテゴリーの北信越リーグへの参入。彼女たちの挑戦はまだ始まったばかりです。

こうして地道なサポートが実ったおかげか、最近では集落の方々から「応援に行きたい」「試合はどうだった？」と言われることもしばしば。「各集落にメンバーの名前ののぼりが立つくらい知名度を上げたい。そのためにはやはり地域貢献と交流が欠かせません」と大平さんは語ります。

「集落の方から、交付金をこういうことに使いたいけどどうしたらいいかと聞かれることもありますし、こちらからアイデアを出す場合もあります」と、野中保全会を担当する小林舞さんは語ります。



活動の一環として、子どもたちのサッカー教室を行う地域貢献活動選手たち。



■ 4. 「棚田に恋」写真・作文コンテストを開催しました！ ■

皆様の中にも棚田地域でご活躍されている方がいらっしゃると思いますが、棚田は、国土の保全、水源かん養などの多面的機能を有する国民共有の財産です。この棚田は、皆様のような地域で農業を行っている方々によって守られています。

農林水産省では、これまでも「棚田に恋」をキャッチフレーズに、棚田の魅力を広く発信する取組を進めてきました。今回、その取組の一環として、美しい棚田の守り人である「おばあちゃん」にスポットライトを当て、「映える（ばえる）棚田おばあちゃん」を募集する「写真・作文コンテスト」を開催し、入選作品として13作品を決定しました。

入選作品は電子版冊子としてとりまとめ、農林水産省「棚田に恋」ポータルサイトで公開しています。どの作品からも、棚田で活躍するおばあちゃんの魅力が伝わってきますので、是非ご覧ください。

（農林水産省ポータルサイト「棚田に恋」）

<https://www.nou-navi.maff.go.jp/tanadanikoi/news/>



【農林水産省地域振興課】

■ 編集後記 ■

9月の連休が明けてから、東京ではガラリと気候が変わり、夏から秋へ一気に駆け足で移っていきました。一方で、依然として新型コロナウイルスの感染は終息せず、感染者数の減少傾向は鈍化しています。秋以降、低温乾燥の下で感染がさらに拡大する事態が懸念されています。季節性インフルエンザなどの感染症への対策も含め、季節の変わり目を肌で感じるこの時期に、改めて感染回避のための生活様式をとれているか、見直したいと思います。

◇バックナンバー◇

https://www.maff.go.jp/j/nousin/kanri/tamen_siharai/nouson_furusato_hozen/index.html



バックナンバーはこちらからもご覧いただけます！→

◇「多面的機能支払交付金のロゴマーク」◇

ロゴマークは以下のサイトからご利用になれます。

どんどんご活用ください！！



高めよう 地域協働の力！

https://www.maff.go.jp/j/nousin/kanri/attach/pdf/tamen_siharai-31.pdf

◇配信先メールアドレスの変更・配信解除等◇

メールアドレス等の変更やメールマガジンの配信解除等は以下のサイトから！

<https://www.maff.go.jp/j/pr/e-mag/>

手続きにはパスワードが必要です。

お忘れの場合は、以下のサイトでパスワードを再発行して下さい。

<https://www.maff.go.jp/j/pr/e-mag/re.html>

◇ご意見・ご感想等◇

メールマガジンに関するご意見・ご感想や取り上げて欲しいテーマ、ご自身の所属する活動組織の紹介文（300字程度）等に関するメールをお待ちしております！！

tamen_ml@maff.go.jp

【発行】

〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1

農林水産省農村振興局整備部農地資源課

多面的機能支払推進室（担当：岡田、小林）

TEL：03-3502-8111（内線5493）